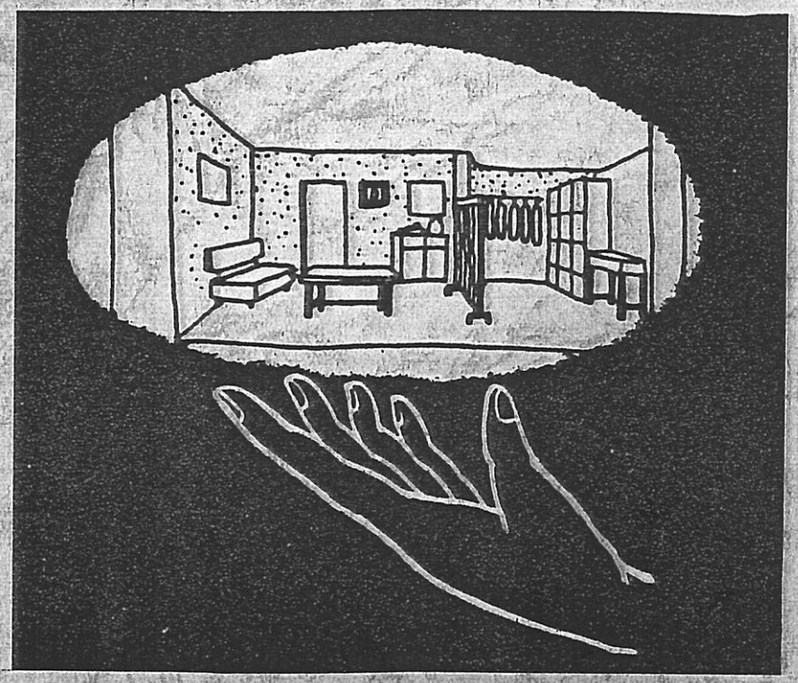
第13回仙台市高等学校演劇祭

第18回宮城県高等学校演劇コンクール仙台地区大会

期日／昭和55年11月20日(木)～23日(日)
会場／仙台市民会館小ホール
主催／仙台市教育委員会
宮城県高等学校演劇協議会
（主管・仙台市中央公民館）



審査員紹介

俳　優

田辺初枝氏

宮城県高等学校演劇協議会理事

松本三弥氏

〃　〃

中嶋久寿氏

〃　〃

佐藤喜志夫氏

〃　事務局長

渡辺喜雄氏

プログラム

後援　河北新報社・ＮＨＫ仙台放送局・東北放送
仙台放送・ミヤギテレビ・東日本放送

	11/20（木）	11/21（金）	11/22（土）	11/23（日）
9：00 30	開場・受付	開場・受付	開場・受付	開場・受付
11：00	上演 1 仙台女子商業高等学校 ＊灯の河に ―邂逅のれくいえむ―	上演 7 聖ウルスラ学院高等学校 ＊鏡想曲	上演 13 宮城県第三女子高等学校 イワナガヒメ物語	上演 19 宮城県泉高等学校 実験動物
12：30	上演 2 宮城県仙台向山高等学校 眠れるチエ	上演 8 尚絅女学院高等学校 ＊又寝ると 明日たいね	上演 14 宮城県第二女子高等学校 白い風景	上演 20 聖ドミニコ学院高等学校 ＊オルゴール
13：00	開会式	昼食・休憩	昼食・休憩	昼食・休憩
14：30	上演 3 東北高等学校 ＊飛べない飛魚	上演 9 朴沢女子高等学校 にび色の砦	上演 15 聖和学園吉田女子高等学校 ＊rush out …	上演 21 常盤木学園高等学校 ＊迷夢（まいむ）
15：15	上演 4 仙台白百合学園高等学校 ＊不等為当令処隠（フラストレーション）	上演 10 三島学園女子高等学校 ＊無常 ―カチューシャの唄―	上演 16 宮城学院高等学校 ＊魔薬	（後夜祭） 審査講評 閉会式
16：00	上演 5 宮城県第一女子高等学校 旅人	上演 11 仙台工業高等学校 ＊ライフ（人生）―自分をみつめながら―	上演 17 宮城県仙台南高等学校 少年と薔薇の花	＊ 創作又は脚色 （9）（3）
17：30	上演 6 宮城県仙台第一高等学校 ＊代償	上演 12 仙台育英学園高等学校 海の底の六人	上演 18 仙台高等学校 戦場のピクニック	
19：00				

1. 上演後，幕間討論を行ないます。
2. 上演中の会場内でのフラッシュ使用撮影は禁止します。
3. 上演時間は多少変わることがありますので御了承ください。

上演 1　仙台女子商業高等学校　灯の河に ―邂逅のれくいえむ―

□ 作　伊藤隆弘，演劇部脚色

□ 顧問　藤村延子，佐々木清史
部長　佐藤美香

□ スタッフ

演出	阿部　京子(2) 佐藤　美香(2)，斎藤　時子(1)
舞台監督	早坂てるみ(2) 高橋はな子(1)
装置	早坂てるみ(2)，高橋はな子(1) 猪又　祐子(3)
照明	庄子　明美(2)，佐藤　美和(1) 安達　裕子(1)，橋浦　佳子(3)
効果	千葉　明子(2)，山木　豊子(1) 波入えり子(3)
衣裳・メイク	高橋　育子(2)，秋葉　陽子(3) 横山　順子(3)，大沼　裕美(2)

□ キャスト

なつ子	佐々木いつ子(1)
むつ子	佐藤　栄子(1)
あつ子	斎藤　時子(1)
みつ子	安達　裕子(1)
た　み	鈴木美世子(1)
ふみこ	安保　靖子(2)
つつみ	庄子　利枝(1)

□ あらすじ

戦争―それは恐ろしく，人間の心までも醜いものにしてしまう。
　　言葉では表わしきれないほど悲惨なこと…。
多数の犠牲者を出した広島原爆という戦争を知らない若い我々には，想像もできないような出来事。この恐ろしい出来事を背景として人と人との思いやり，愛情，憎しみなどが繰り広げられる。
　女子商が初の戦争劇に挑戦した「灯の河に」― お楽しみに！

□ 演出のことば

戦争を背景にした劇でしかも抽象劇―かなり難しい作品を選んだものだと今さらながら感じています。しかし，広いステージ，充実した舞台装置が使えるコンクールで，我校の体育館では発表できないような劇をやってみたいという全員の願望で，この劇に決定しました。戦争という恐ろしい出来事を背景とし，その中で親子の絆，人間の心の動き，そして二度と戦争を起こしてはいけないということを劇を通して訴えたいと思います。また，この劇は抽象劇なのでパントマイム的な要素も必要になってくることから，立ちに入る期間も長くし，体ごとぶつかっていける劇を作りあげるため苦労しました。

上演 2　宮城県仙台向山高等学校　眠れるチエ

□ 作　松本和子

□ 顧問　永澤幸助
部長　須藤恵理子

□ スタッフ

演出	阿部ゆかり(2) 久保田千佳子(2)
舞台監督	佐藤　和之(2)
装置	佐藤　和之(2)
照明	永野　博子(1)，久保田千佳子(2)
効果	正木　三和(2)
衣裳・メイク	堀岡　涼子(2)

□ キャスト

末永　笙子	正木　三和(2)
野田きみ子	須藤恵理子(2)
小川　里美	阿部ゆかり(2)

□ あらすじ

婚期をとうに逸した女がやっと幸せな結婚に向かってスタートした日。そして平凡な主婦にあきたらなかった女が，働くことに生きがいを見つけて再就職した日。この二人の念願がやっとかなったその日に事件は起きる。幸福への夢が，一瞬のうちに消え去ってしまう。被害者と加害者 ―― この毎日の生活。それから一年，今までの生活が変わろうとしている……。

□ 演出のことば

部員のほとんどが2年生であるために，“最後の劇はやりがいのある脚本で”と決まり，私たちにとって難しいと思われますが，部員全員の一致で「眠れるチエ」を選びました。この脚本は，決まりきった生活から抜け出そうと考える，笙子ときみ子を通し，「人間は，自然な生活の流れに添って生活していけば，幸せは壊されない」といったことを訴えているのだと考え，その考えに基づいてこの劇をつくりあげました。苦労したことは，演劇面―短い言葉のもつ意味を声の響きに表わしたり，長いセリフが単調にならないように強弱をつけたり，笙子ときみ子の調子の合わせ方。スタッフ面―照明経験者がいなく，プランがたてられない。等です。

上演 3　東北高等学校　飛べない飛魚

□ 作　演劇部

□ 顧問　斎藤信雄
部長　庄子一寿

□ スタッフ

演出	伊藤　寛人(3)
	星　睦生(2)
舞台監督	今内　隆(1)
照明	両国　一広(3)，山内　孝一(1)
効果	庄子　一寿(3)，井沢　芳郎(2)
装置	泉沢　道治(3)，小野寺　巧(2)
	今内　隆(1)
衣裳・メイク	両国　寿伸(3)，菊地　光国(1)

□ キャスト

A	阿部　尚(2)
B	泉沢　道治(3)
C	伊藤　寛人(3)
D	星　睦生(2)
E	小野　健市(2)
＜コロス＞	
あ	矢塚　昭彦(1)
い	両国　寿伸(3)
う	白石　浩寿(1)

□ あらすじ

東大進学寮という，ものスゴーク頭のいい学校直属の寮があった。その中で寮生達は苛酷な教育を強制される。
しかし，その中の４人の若者は自由というものにあこがれ，脱走を企てた。脱走は成功したが，逃走中１人がつかまってしまう。のこりの３人は，尚も逃げ続ける。逃げながら３人は自分達の限界を感じる。…… これから３人は，どう生きるか !?
　毎年のように，我高の作品は，背筋を伸ばし，足を揃えて見るような品物ではございません。足を組み，隣の人と話しながら，どんどん悲鳴なり，奇鳴なりおかけください。せめてある程度の同情心がある方なら，きっと歓声をあげていただけると信じます。

□ 演出のことば

今回の公演でこの脚本を取り上げた理由は，そおーなんです。Aさん以外の脚本は好きになれなかったからなんです。とにかく，今回の「飛べない飛魚」を取り入れる上でまだ荒筋だったけれど，部員全員がこの脚本をみんなで創って行こう，そして，ガンバッペと，ひっしと抱き合った！勿論時間は随分かかり，本当に出来るのかとあせったりしたけれど……とにかく，この脚本を完成へとこぎつけました。この物語は「つめこみ教育」を土台にして展開していくわけですが，ただ受験といった形のものだけでなく，現実の社会の醜さに痛めつけられた若者達の姿を抽象かつリアルに表現し訴えたい！そして皆様がこの芝居を観て，いいなあって思ってくれれば，僕達は満足です。

上演 4　仙台白百合学園高等学校　不等為当令処隠（フラストレーション）

□ 作　演劇部

□ 顧問　安斎美樹，武田厚子
部長　白戸房子

□ スタッフ

演出	舘沢真木子(3)
	関　佐智子(1)
舞台監督	髙橋　海香(1)
	平野富貴子(3)
装置	白戸　房子(2)
照明	松川　由美(3)，後藤ゆかり(1)
効果	安達　珠子(1)，杉浦有里子(1)
衣裳・メイク	鈴木　利美(2)，大橋　春美(1)

□ キャスト

せみ	佐藤七生美(3)
かめ	庄子　恵美(2)
演出	関　佐智子(1)
1	佐藤　則子(2)
2	殿塚　恭子(1)
3	大平　弘美(1)
4	石川佳代子(1)
5	舘沢真木子(3)
6	田崎ひろみ(2)
A	大平　弘美(1)
B	石川佳代子(1)
C	田崎ひろみ(2)
D	大橋　春美(1)
E	殿塚　恭子(1)

□ あらすじ

例によって例のごとく演劇部の練習風景。そうです。創作劇によくあるパターンです。何に手をつけてもすぐ飽きるコ。これもどこにでもいる存在です。そして，そのようなコが演劇部の一員であった。これもまた偶然と言うには及ばないごくありふれたことです。
ある日，ふとした瞬間にその“どこにでもいるコ”が，部員の一人といっしょに，とある空間に迷い込んでしまいます。大変くどいようですが，これも非常にありふれたお話です。
しかし考えてみて下さい。そのような“ありふれたこと”に，あなたは何度気を止めたことがありますか。
さあ，今がその時です。私たちと考えてみませんか。

□ 演出のことば

脚本が決まって１ケ月半，私たちは僅かな部活動の時間を大きな演劇への熱意をもって，初めての創作劇に費してきました。今回の劇は３年ぶりの，つまり過去に創作を手掛けたことのない者でつくった劇なのです。それだけに，今日までの過程は大変なものでした。
何度も話し合い，全員が劇のすべてを把握しているという充実感や満足感，また“みんなでやった”という連帯感，それらを一気に感じとった１ケ月半でした。
演出として劇の出来は気になりますが，それよりも，今はこの劇が我が演劇部の新たなる旅立ちになることを祈ります。最後に，私たちに携わって下さったすべての方々に一言，——「ありがとう」———。

上演 5　宮城県第一女子高等学校　旅　人

□ 作　寺島アキ子

□ 顧問　早川俊雄
部長　宮城恵子

□ スタッフ

演　出	宮城　恵子(2)
舞台監督	永井　匡子(1)
	高橋　敏江(1)
装　置	日塔　理香(1)，大沼　千恵(1)
照　明	鈴木　紹子(1)，須藤　理恵(1)
	清野ゆりか(1)
効　果	伊沢　貴子(1)，大窪亜紀子(1)
衣裳・メイク	青木　聡美(1)，上埜由香理(1)

□ キャスト

母	佐藤　敦子(2)
娘	菅谷美貴子(2)
旅人	宮城　恵子(2)

□ あらすじ

16年前に助けていただいた神様への御恩は忘れることができません。今年もまた，助けていただいた日がめぐってきました。神様は今年はいらっしゃるのでしょうか？

「こんにちは。」

あまり立派でない旅人がやってきました。外の世界を知らない娘は，暖かい方のことを聞こうとします。旅人は若かった自分の姿を娘に見出して，社会に対する希望と絶望を話すのでした。

母にとって神様とは？娘にとって，そして旅人にとって神様とは一体何だったのでしょう？

□ 演出のことば

参加人数は14名。悪夢のオールスタッフ，オールキャストを切りぬけるにはこれしかない！というのが第一の理由なのです。というわけでキャストは３人。一人分のせりふの量の多さといったら……。

時代と場所を設定しにくい脚本なのでプランニングで一悶着。でも，時代を越えても，若者の心の中の根底をなすもの―希望―に変わりはないのです。

若者の代表として娘，大人を凝縮して母親を表現し，その間をゆく，まさに旅人である旅人と対比させて，若者と大人の間にあるみぞをも表現できたら幸いです。

上演 6　宮城県仙台第一高等学校　代　償

□ 作　演劇部

□ 顧問　吉城文雄
部長　山並秀章

□ スタッフ

演　出	山並　秀章(2)
舞台監督	千葉　文昭(3)
装　置	伊藤　幸雄(2)，阿部　盛一(1)
照　明	長谷川　章(3)
効　果	泉田　伸二(3)
衣裳・メイク	冨田　政則(3)

□ キャスト

浩一	伊藤　幸雄(2)
勉	阿部　盛一(1)
寛之	山並　秀章(2)

□ あらすじ

昔々，あるところに男がいた。その男は貧しい学生であったが，人なみに女の子を愛していた。女の子には，将来が決まっていた男がいたのだから，一方的にふられるのは，目に見えていたのであった。ある日，女の子の兄がその男に，もうちょっかいださないでくれと頼みにくるが，その男は自信過剰が災いして，その兄を殺してしまうのである。ここから，この物語がおもしろくなっていく……。

□ 演出のことば

この脚本は演劇部の情勢により，人数に即するように書かれたものであり，欲求不満の掃け口となっているきらいも多分にあります。そこには共学校へのねたみ，女子校への憧れ，それら日々の生活に内在する一切の感情が，あるいは正当化され，あるいは逆説的に語られています。（たとえばそれは愛・人生のすばらしさなどです。）

とにかく，自らのいたらなさに屈伏する事なく，発音その他演技の未熟さをも省みず，ここに至った事は，（結果を度外視すれば）特筆すべきでありましょう。

（山並秀章著「一高演劇部に関する考察」より抜粋）

上演 7　聖ウルスラ学院高等学校　鏡　想　曲

□ 作　演劇部

□ 顧問　北島雅之
部長　菅井麻由美

□ スタッフ

演　出　太田　千明(2)
舞台監督　佐々木晴美(2)
装　置　小林　早苗(2)，黒川　幸子(3)
阿部のり子(3)，三鉢　恵美(1)
照　明　伏見美奈子(2)，角川　静(2)
猪狩　和枝(2)，大友　征美(1)
近江真理子(1)
効　果　高山　美香(2)，水戸　晴美(3)
堀籠　明美(1)

□ キャスト

Y　森谷　尚枝(1)
I　菅井麻由美(2)
A　千葉　秀美(1)
B　佐藤富美子(1)
C　松岡　洋子(1)
D　高橋　弘美(2)
コロス　伊藤ふじ美(2)
斎藤加奈枝(2)
江戸美由紀(1)
菊地　英子(1)
木村　ゆか(1)

□ あらすじ

人は誰でも成長する過程で様々なことを覚え身につけてゆく。社会に生きるためにはどうしても必要なことだ。しかし多くのことを吸収するかわりに幼い頃から持っていたものを除々に失ってゆくのではないだろうか。それは社会のせいかもしれない。あるいは自分がいけないのかもしれない。物が見えてくるにしたがって神秘のベールははがされてゆく。現実が見えたときに救いとなるものがなくてはならない。それを何に求めるかでその人の人生の方向が定ってくる。
夢はひとつでも残しておきたい……。

□ 演出のことば

自分達で作ってみたいという希望から，作り始めた。創作ということで，テーマの問題もあったが，私達の年代で一番結論がだしにくく，自分で解決しなければならない，現実と夢に的をしぼることになり，この脚本が出来上がった。生きていくうえで，夢がくずれさるということは悲しいことだ。けれど私達はいつしか現実を知ってしまう。その時自分はどうすべきか？一人の少女を通して考えてみたい。
とにかく時間との戦いで，あせりと不安ばっかりだったけど，みんながんばってくれたし，助けてくれたことが一番嬉しかった。

上演 8　尚絅女学院高等学校　又寝ると明日たいね

□ 作　水野一成，演劇部脚色

□ 顧問　大石　孝，菅原　栄，安部　武
部長　灰野佐和子

□ スタッフ

演　出　灰野佐和子(2)
近藤　由紀(2)，田口　真弓(1)
舞台監督　大内多佳子(2)
内海　澄子(2)，佐々木明美(1)
装　置　大野　彰子(2)，逸見奈保美(3)
佐藤美智子(3)，由利美智子(3)
宍戸　広美(3)
照　明　近藤　由紀(2)，佐々木明美(1)
桜井みゆき(3)
効　果　大内多佳子(2)，村山由紀子(1)
丹野　夏美(3)，庄子　優美(3)
衣裳・メイク　内海　澄子(2)
演技指導　高島　史子(3)

□ キャスト

弓　子　大野　彰子(2)
良　子　早川　香里(2)
沢　子　田口　真弓(1)
文　子　山田　仁美(1)
美知子　槻田　弘美(1)
寮　母　渡辺　由美(1)

□ あらすじ

会社で働きながら高校に通う少女達が，どんな困難に会いながらも明るく生きようとする姿を描いた脚本です。午前中，学校に行き，午後10時まで仕事する彼女達にとって，その後の時間はとても楽しいひととき。そんなある日，事件が起こり…。ある一人の少女のおせっかいが，一人の少女の将来の夢をぶち壊してしまう。そして，それをとり巻く友が，悪いところを指摘し合い，励まし合いながら，苦しみを乗り越えようとする。しかし，弓子のひたむきな気持ちは，良子には理解してもらえなかった。だが，弓子は……。

□ 演出のことば

この劇を作る上で一番苦労したのは，人数不足のため，なかなか思うように練習することができなかったことです。そのために一人二役を兼ね，顧問の先生のご指導をいただきながら一生懸命やってきました。
なぜこの脚本を選択しましたかというと，何不自由なくあたり前のように生活している我々高校生に，働きながら高校に通う少女達のひたむきさと明るさが印象強く，とても感動したからです。私達の力では，どのくらいこれらを表現できるかどうかわかりませんが，今まで練習してきた成果を見て下さい。未熟ではありますが，頑張りますので，よろしくお願いします！

上演 9　朴沢女子高等学校　にび色の砦

□ 作　雑賀　聖

□ 顧問　千葉真理子，広瀬和雄
部長　上原美弥子

□ スタッフ

演　　出	遠藤　裕子(3) 内ケ崎由美子(2)，関根奈津子(1)
舞台監督	鈴木　秀美(2) 滝浦　礼子(1)
装　　置	足利恵美子(3)，結城　俊枝(2) 井出みちよ(1)，難波　和子(3) 菅原ちづ子(2)，関根奈津子(1) 生田　博子(1)，伊藤　明子(1)
照　　明	佐々木尚子(2)，済谷川優子(1) 関　　裕子(1)
効　　果	小関　富恵(2)，阿部　幸恵(1) 小野寺道子(1)
衣裳・メイク	岩腰千代子(1)，菊池美可子(3)
小 道 具	難波　和子(3)

□ キャスト

主　　婦	住川　由希(3)
強　　盗	佐藤　美香(3)
借金取り	加藤　幸恵(2)
情　　婦	菊池美可子(3)
サークル	永野富美子(2)
押 売 り	上原美弥子(3)

□ あらすじ

羊かいの少年が，暇でしかたがないので，「狼が来たぞ!!」とうそをついた。
ある日，本当に狼が来たのにだれも信じてはくれなくて，羊も少年もたべられてしまった。
……

東京のある住宅地の平家の居間で主婦がいたずら電話をしている。そこへ，次々と強盗，借金取り，情婦，サークル……などが出現する。そのたびに主婦は，その場しのぎにうそを言うが，押し売りの登場によってそのうそがばれていき，主婦は，自分のついたうそによって，“がんじがらめ”になってしまう。

□ 演出のことば

喜劇のおもしろさに興味を持って，自分達のやり方，表現のし方でやってみたかったから。そして，「にび色の砦」に出てくる十代，二十代，三十代，四十代の人間の生き方を，さまざまな角度から表わしたかったので，この脚本を取りあげました。この脚本に取り組むことによって辛く感じたことは，舞台製作の面です。なれない手つきでかなづちを持ち，釘を打つかわりに指を打った者もいましたが，部員全員が団結して日夜がんばっています。

上演 10　三島学園女子高等学校　無常　ーカチューシャの唄ー

□ 作　阿部充恵

□ 顧問　徳山昭光子，小栗典子
部長　荒屋淳子

□ スタッフ

演　　出	阿部　充恵(3) 高橋ゆかり(2)
舞台監督	鈴木　純子(3) 桜田　千恵(1)
装　　置	早坂ひとみ(3)，二郷　英子(1) 松本　敏子(3)
照　　明	佐藤　清美(2)，北見ゆかり(1) 阿部　佳恵(1)，中野目千春(1)
効　　果	中山　敏子(2)，堀江まち子(3) 大江多加子(1)
衣裳・メイク	丹　美智子(1)，吉田　圭子(1) 佐藤　知香(1)

□ キャスト

五百子（イオコ）	小貫亜紀子(3)
島村（シマムラ）	木村真由美(3)
貞（サダ）	高沢　佳子(3)
老婆	荒屋　淳子(3)
百々子（モモコ）	山田ひろえ(2)
！	佐藤　清美(2)

□ あらすじ

私は太陽になるわ。そして太陽は他の人々に光を与えなくては……らいてうと須磨子の好きなハイカラ娘の五百子。五百子は口の聞けない老婆に尽くした。老婆もまた五百子を頼った。が二人は別れ，歳月を経て再会する。人間的に成長した五百子，しかし老婆は……？
そして今，もうひとつの何かが……。
人は変わらずにいることはできない一無常である。人へは人の心が通じず，良いことも人によっては悪い，人の人生というものは一無情である。

□ 演出のことば

ＹＡＫＵ座・荒屋組との座名がついて，初めてのコンクール。私達ははりきった。そんな時いつもじゃまになるのは私達が女であること。ようし！どうせなら女であることを強調してやろうじゃないか！女が初めて輝きだした大正時代を最大限に表現しよう！そしてその美しい時代の中で三島にしかできないような，そんな人間の泥くささを表現しよう！
そう私達は今言いたい“人間なんてこんなものさ”。　上演するにあたって苦しかったことはさまざま。やせるために減食したキャスト。不動産屋・古道具屋をかけずりまわったスタッフ。必死になって覚えた手話。図書館に釘づけになっての時代考証。これだけやったんだ。もうやるしかない。

上演 11　仙台工業高等学校　ライフ（人生）—自分を見つめながら—

□ 作　相原裕彦

□ 顧問　渡辺喜雄，斎藤広通
部長　桜井襲雄

□ スタッフ

演出	相原　裕彦(3) 桜井　襲雄(3)
舞台監督	桜井　襲雄(3) 菱沼　勝(3)
装置	千田　善則(3)，渡辺　靖彦(3)
照明	桜井　襲雄(3)，菱沼　勝(3) 千田　善則(3)
効果	菱沼　勝(3)，相原　裕彦(3)
衣裳・メイク	相原　裕彦(3)，菱沼　勝(3)

□ キャスト

山下友彦	千田　善則(3)
泥棒	相原　裕彦(3)
川上哲也	菱沼　勝(3)
刑事　A	桜井　襲雄(3)
刑事　B	渡辺　靖彦(3)

□ あらすじ

一人の男が部屋にいる。その部屋に泥棒が入り，いろいろな問題をのこして刑事につれさられてしまう。その後，男の友人がその部屋を訪ずれ，またもや問題をのこし，そのあとに，とんでもないハプニングが起る。男は，あわてふためきながら部屋の洋服ダンスにかくれてしまう。そこに刑事がやって来て……。
パロディーでもあり，シリアスでもあり，ちょっと個性があり，まっ見てください。

□ 演出のことば

さあ，やってまいりました，演劇祭が。そして，おまたせの仙工の登場です。今年の劇は，ライフ（人生）—自分を見つめながら—です。この脚本をとり上げた理由として，内容がおもしろく，容易にストーリーが変化するということと，人数面において，スタッフ，キャストに均等に配分されることです。人数不足で，練習も満足とまではいきませんが，とにかくがんばっています。
とにかく，リラックスして見ていただけると思います。どうぞ気楽に。

上演 12　仙台育英学園高等学校　海の底の六人

□ 作　コットマン，加藤　衛訳

□ 顧問　近江昭良
部長　北村巳津英

□ スタッフ

演出	北村巳津英(3)
舞台監督	秋葉　司(3)
装置	浅部　龍雄(2)，山本　典(1) 中村　利通(1)，菅沢　宏(1) 佐藤　明郎(1)
照明	鈴木　昭彦(3)，池田　健司(3) 佐藤　勝宏(2)，川上　哲也(1) 日野　正義(1)，佐藤　一夫(1)
効果	高橋　和夫(3)，大室　敏也(2) 菅野　隆幸(1)，後藤　剛(1)
衣裳・メイク	猪口　達也(1)，鈴木　昭彦(3)

□ キャスト

ダン	菅野　隆幸(1)
ショウ	池田　健司(3)
ブライス	北村巳津英(3)
艇長	高橋　和夫(3)
ナップ	猪口　達也(1)
ジョーグソン	川上　哲也(1)

□ あらすじ

場所は，数百フィートの海底。脱出できなくなってしまった潜水艦の中で，生き残った6人が，何とか脱出しようとするが……。
生き残った6人のうち1人，ブライスの言動によるほかの5人のブライスに対する見方や考え方，ブライス自身の感情が浮き彫りになってくる。

□ 演出のことば

我が校演劇部は，他の高校と比べると，部員も少ないので，キャストに人数をあまりかけられないので，この脚本をとりあげました。
観客の皆様には，死に直面した6人を，自分にあてはめて見てもらい，その後で，自分自身の考え方と比較していただければ幸いです。
舞台装置を作る時，できるだけ本物に近づけるために，資料などを持ちよって，全員の意見を聞いて，それを一つにまとめるよう努力しました。
練習は苦しくても，一人一人，自分の責任を持って行動してくれて，生き生きした練習ができました。

上演 13　宮城県第三女子高等学校　イワナガヒメ物語

□ 作　町井陽子

□ 顧問　内海郁夫
部長　門脇聖子

□ スタッフ

演出	阿部みどり(2)
舞台監督	石堂　裕子(2)
	山木美智子(1)
装置	前田　葉子(1)，村主　明子(1)
	宮入　千晶(1)
照明	伊藤　智子(1)，兵藤　ゆか(1)
	盛合　佳子(1)
効果	門脇　聖子(2)，遠藤　壽美(1)
	小山　佳子(1)
衣裳・メイク	藤原美恵子(2)，猪狩　聖子(1)

□ キャスト

イワナガヒメ	安達　佳子(1)
サクヤヒメ	安念　明美(1)
イワナガヒメの母親	福田　則子(2)
侍女カヅラコ	杉内　淳子(2)
侍女トリコ	吉田　悦子(1)
侍女ナカコ	野村　純子(2)
老婆アカイコ	菅野みと子(2)

□ あらすじ

遠い神代。カササの浜のオオヤマツミノカミの娘，イワナガヒメは，美しいとはいえないが，たいへん心のやさしい姫君でした。美しい妹のカミナガヒメに先を越され，売れ残　てしまったヒメ。ヒメの母親にしてみれば，今一番の悩みの種。カミナガヒメの力添でやっと訪れたアマツヒコとの縁談に，ヒメの母は躍起になっていますが，当のイワナガヒメは，何かうかぬ面持です。さて，この縁談はうまくまとまりますでしょうか。

□ 演出のことば

「これでいいんじゃない。」と，安易な気持ちで選んでしまったこの脚本。スタッフの製作がはじまると共に，会計の叫び声が体育館にこだまします。「金がない。」と。ですから，この僅かしかない部費をどのようにして浮かすかという事が真剣に論じられ，プランの変更が何度もありました。スタッフは，演出にはごねられ，舞台監督には小突かれて散々。キャストはまた，冷たいステージの上をヒタヒタと，素足で練習したのです。みんな，雨（モリ）ニモマケズ，（スキマ）風ニモマケズ，貧シサニモ，ヒモジサニモマケヌ丈夫ナ体ヲモチを合い言葉に頑張ってきました。

上演 14　宮城県第二女子高等学校　白い風景

□ 作　川崎市高津高等学校演劇部

□ 顧問　程島秀明
部長　飯塚美好

□ スタッフ

演出	飯塚　美好(2)
	渡辺　由佳(1)
舞台監督	蓮沼　美紀(1)
装置	伊藤　由美(1)，歌書百合子(1)
照明	板垣由美子(1)，庄子　千香(1)
効果	谷地森久美子(2)，牛田詠子(1)
衣裳・メイク	吉田　真弓(2)，相原万貴子(2)

□ キャスト

A（管理人）	相原万貴子(2)
B（助　手）	渡辺　由佳(1)
C（9008号室）	加藤　睦子(2)
D（9002号室）	吉田　真弓(2)
F（9001号室）	大沢奈々美(1)

□ あらすじ

21世紀。人類の無限の発達と共に，科学技術は益々発展していった。それを背景に大手メーカーの画一化は，人々の個性ある生活の場を奪ってきた。そこで，高性能のコンピューターによって，個性を発揮しようという考え方から生まれたのが，ここ，『誠心マンション』である。
その一部である90階。人々は，コンピューターによって，AからFまでの階級をつけられ，各々適したコンピューターを使用した。階級毎の生活環境には驚くべき差別があった。そんな中へ，何も知らないD級の新しい入居者がやってくる。Dさんを中心に，様々な人々の人間模様が，この劇の中で激しく展開する。

□ 演出のことば

「今までやってこなかったキャラクターが登場する，私達にとってむずかしい劇に挑戦してみよう。」という部員一同の意志によってこの脚本がとりあげられました。
背景が未来であるという時間的差をどう表現するか。そんな悩みにも，数少ない経験者である2年生と，新しい考えを巡らせる1年生との調和がいつも私を助けてくれました。
この劇を通して最も強く訴えたいことは，どんな社会環境のもとでも，人間は，人間性を失ってはいけない，ということ，そして，それが，現在の生活の場においても“共通する何かがある”と感じていただければ，幸いだと思います。

上演 15　聖和学園吉田高等学校　rush out ……

□ 作　演劇部

□ 顧問　佐藤喜志夫，大森智子
部長　結城順子

□ スタッフ

演　出	片峯由紀子(2)
舞台監督	吉田　ゆみ(2)
装　置	田元　晴子(1)，佐藤恵美子(3) 遠藤　順子(3)，大塚ひとみ(3) 神保阿都子(3)
照　明	高島　美樹(2)，菅原ルミ子(1) 三浦　明美(3)，佐藤千鶴子(3) 高橋　淳子(3)
効　果	森　須賀子(2)，庄子　智子(3) 結城　順子(3)
衣裳・メイク	横山美智恵(1)，鈴木由美子(3)

□ キャスト

A	藤原　淳子(1)
B	伊藤　和恵(2)
C	我妻美由紀(2)
D	大浦　直子(1)
E	森　須賀子(2)
F	遠藤　利子(2)

□ あらすじ

ある場所にＡＣＤがいる。突然Ｄはこの場所に不満をもち，他の何かを求めて旅立つ。Ｄの代わりとして，ここの支配者はＢを送り込む。ＡＢＣの討論の始まり，果して生きている存在を示すことができるのか？
この脚本の特色は，Ａの考え方の成長を示すＦとの関連，そして，現代社会の実情を抽象的に表わしたということです。

□ 演出のことば

脚本を選定する段階で，無限の可能性を秘めていて，そしてその中で自分達のもっている力を出し切れるもの……創作を手がけたいという部員全員の希望で，劇の内容も，テーマも，題名もすべて聖和演劇部員で考え作り上げていったものです。
身近に感じられることをテーマに，同一化，単一化されている今の機械的社会の中，こんな社会に存在している私達は何なのか？ということを知ってほしく又，この世の中での自分の存在感のようなものを改めて考えてほしいものです。
ひとつの劇を全員で作るにあたって全員の意見の食い違いをまとめることは，難しいことだと，ひとつ良い経験をしました。

上演 16　宮城学院高等学校　魔　薬

□ 作　D.アリス，演劇部脚色

□ 顧問　石井純子，高澤廣子
部長　松木和恵

□ スタッフ

演　出	加藤　紀代(3)，屋代　裕子(2)
舞台監督	及川　京子(2)，黒瀬　直子(1)
装　置	松木　和恵(2)，加藤真由美(3) 佐々木礼子(2)，唯野　優子(1) 角張さわ子(1)，亀井ひろ子(1)
照　明	菅原知賀子(2)，石垣真喜子(3) 横山久美子(2)，鈴木　千寿(2)
効　果	岡本　道子(2)，山口久美子(2) 岩佐ゆかり(1)
衣裳・メイク	名取由里子(2)，伊藤　えみ(1) 大内由佳子(1)

□ キャスト

クリス	松村　明美(3)
	高橋比呂子(1)
マ　マ	佐々木礼子(2)
校　長	名取由里子(2)
麻薬取締官	石垣真喜子(3)
少　女	山口久美子(2)
	鈴木　千寿(2)
	岩佐ゆかり(1)
	伊藤　えみ(1)
	唯野　優子(1)
	屋代　裕子(2)
	加藤　紀代(3)

□ あらすじ

これは，アメリカの中流家庭に育った一少女の日記を基に，麻薬に関する体験を脚本化したものである。明るく健康的な，ごく普通の15才の少女が，ある日突然麻薬の世界に引きずり込まれる。
幻覚，家出，セックス。懸命にのがれようとする彼女を，悪魔の薬はとらえて離さない。この脚本の内容となっている彼女の体験がクスリの世界全てを表わしてはいないし，その記録も断片的である。しかし，彼女にとって唯一の友であり，慰め手であった日記には自己の魂の遍歴が正直に書き綴られている。この彼女の体験を，回想の場面を折り混ぜながら，辿っていく。

□ 演出のことば

世の中が複雑化している現代。私達が少しづつ大人になり，生きていることが虚しくなっている今。私達の血は，何を求めて脈打つのだろうか。その血がたとえ汚れたものであったとしても，この脚本の中に確かに脈うっていると感じた時，私達はこの脚本から離れられなくなった。人生に対して逃げ腰にならずに，まっすぐな心で，にごらない目でまともなものを見て歩きたい。しかし汚れたものを見て見ぬふりをして生きることは私達にはできない。白い粉の恐怖が叫ばれている今こそ，現実に基づいた芝居を，演じている自分にも観せたい。記録を調べ，真実を知らされるにつれ深く感じていく苦しみを，私達はいつ乗り越えることができるだろうか。

上演17　宮城県仙台南高等学校　少年と薔薇の花

□作　西之園至郎

□顧問　川村敏由

□部長　浅野正巳

□スタッフ

演　　出　舘内　優子(1)
舞台監督　舘内　優子(1)
装　　置　浅野　正巳(2)，菊地　　聡(2)
　　高橋　光孝(2)
照　　明　飯田ちか子(1)，千葉　　繁(2)
　　佐藤　　満(2)，佐藤　秀樹(2)
効　　果　森　　淳一(2)，菅野　竜一(2)
　　藤島　浩明(2)
衣裳・メイク　松野　則子(1)

□キャスト

一　郎　浅野　正巳(2)
a（もう一人の一郎）
　　松野　則子(1)
母　　福岡　敦子(1)

□あらすじ

ある家庭があった。そこには両親と高二のひとり息子，一郎が住んでいる。両親は一郎に大きな期待をかけていた。この家の未来は一郎にかかっているのだと。一郎の成績は悪いが，それを母に告げることができなかった。ある日，母が学校へ呼び出され，一郎の成績がバレた。母はショックを受けて，一郎を説教した。母が部屋を去ってからａが現れた。一郎が少しづつ違った方向へ歩み始めた時，並行して現れたのがａ。ａは，母から離れ始めた一郎の中の，今迄母が占めていた座を少しづつかわり始めていた。ａに頼り始めた一郎は，ある時ａとかみあわなくなって……そして一郎は自立というものを朧げながらつかみ，進み始める。

□演出のことば

人間は，誰しも必ず"自立"という目に見えない壁に突き当たる。この作品中の少年一郎は，今まさにその時期にある。母親，もう一人の一郎ともいえるａ，受験勉強，成績不振，過ぎし日への憧憬，そして未来，様々な事象が一体化して一郎の回りを渦巻いている。同様の事態が私達にも十分に起こり得ることであり，且つ，一郎は私達自信とも考えられるのではないか。これが脚本選定の理由である。
一郎がいかにしてその壁を突き破ろうとするか，又，自己のつくり出したａとの精神面での葛藤を，かなう限り表現したい。それはいうまでもなく，私達の戦いである。

上演18　仙台高等学校　戦場のピクニック

□作　F・アラバール，若林彰訳

□顧問　阿部順夫
部長　高杉敬介

□スタッフ

演　　出　高橋　英明(2)
　　黒川　一仁(2)，高橋ゆかり(2)
舞台監督　佐藤　光廣(2)
　　風間　　恵(1)，佐藤　明子(1)
装　　置　森内理恵子(1)，阿部　剛士(1)
　　佐藤　直樹(2)
照　　明　菅原久仁子(1)，佐藤　明子(1)
　　佐藤千賀子(1)
効　　果　玉城　美希(1)，風間　　恵(1)
　　小林　幸子(1)，山下　端枝(1)

□キャスト

ザポ（兵士）　荒　　幸成(1)
テパン氏（その父）　高杉　敬介(2)
テパン夫人（その母）　岸浪　景子(2)
ゼポ（敵の兵士）　高橋　英明(2)
衛生兵その１　佐藤　総大(1)
衛生兵その２　黒川　一仁(2)

□あらすじ

戦場……。
舞台に張りめぐらされた鉄条網，砂嚢の山，戦闘は，今や酣（たけなわ）である。爆弾の炸烈音，ライフルの銃声，機関銃の火を吹く音……。
やがて戦闘は中止される。静寂……。
そして……。

□演出のことば

私達は今　思い起さなければ　／　私達は今　平和をきずかなければ
私達は今　兄弟を守らねば　／　私達は今　戦争を忘れてはならない
　まるで洪水のように　／　なにもかもが……　／　ひきずりこまれていく
私達は今　世界を見つめなくては　／　私達は今　政治を学ばなければ
私達は今　あすの日を守らねば　／　私達は今　戦争を忘れてはならない
　まるで洪水のように　／　なにもかもが……　／　ひきずりこまれていく
私達は今　戦争を忘れてはならない

上演19　宮城県泉高等学校　実験動物

□作　井関義久

□顧問　佐藤秀次，川村裕子
部長　渡辺浩美

□スタッフ

演出	祐川　清美(2)
舞台監督	安藤　理香(2)
装置	安藤　理香(2)，谷口　文代(1) 佐藤しのぶ(1)
照明	浜岡　文恵(2)，佐伯むつみ(1)
効果	祐川　清美(2)，渡辺　昭子(1)
衣裳・メイク	渡辺　浩美(2)，中島由紀子(1)

□キャスト

モルモットA（母親）	渡辺　浩美(2)
同　B（娘）	渡辺　昭子(1)
同　C（ニュース屋）	佐藤しのぶ(1)
同　D・E（双頭の赤ん坊の幽霊）	浜岡　文恵(2) 中島由紀子(1)

□あらすじ

死ぬことが名誉であると信じている母親とどうしても生きのびて行きたいと願う娘が意見を戦わせている。そこへ次々とニュースが知らされる。双頭の赤ん坊が生まれた。このニュースが人間の犠牲になる母親の不安をつのらせた。人間をあくまで信じ続けるようとする母親だが……。

□演出のことば

今回は珍しく抽象劇に取り組んでみました。今まで私達は抽象劇をやった事がなかったのですが，一度は挑戦してみるべきであると思い意見が一致しました。この劇は現代社会の風刺的な場面がある。そこもこの脚本を選んだ理由の一つです。上演を通して訴えたい事は，人間の罪に対する告発で，この罪に値するものは，人間がしらずしらずのうちに行う行為，例えば自然破壊や公害などをひき起こしてしまった事への反省をするべきではないかということです。とにかく精一杯頑張りますので見て下さい。

上演20　聖ドミニコ学院高等学校　オルゴール

□作　演劇部

□顧問　小野寺いく子
部長　鎌田篤子

□スタッフ

演出	佐藤はつみ(3)
舞台監督	鈴木真奈美(3)
装置	鈴木真奈美(3)，佐藤　友美(2) 山崎　祐子(1)，高橋　千恵(1)
照明	鎌田　篤子(3)，相沢百合子(2) 佐藤美恵子(1)，宮崎　純子(1)
効果	岩間ゆかり(3)，千葉恵理子(1) 鈴木　裕子(1)
衣裳・メイク	早坂　成子(2)，佐藤はつみ(3) 樋口　深雪(1)，山尾たか子(1)

□キャスト

ベベ	佐藤はつみ(3)
クリス	鈴木真奈美(3)
マヤ	鎌田　篤子(3)
ケティ	早坂　成子(2)
ミリー	相沢百合子(2)
ジャネット	樋口　深雪(1)
（声）母親	鎌田　篤子(3)
（声）子供	千葉恵理子(1)

□あらすじ

ここは，ある国の下町。戦後10数年の年月がたっている。靴みがきの少女ベベと女すりたち5人が，いつものように集っている。ふとしたきっかけから，ベベの持っていたオルゴールのことを聞きだす女すり，クリス。そのオルゴールは，ベベにとってたったひとつの母親のかたみだったのだ。それを知ったクリスは，仲間にそのことを話し，生きているか，死んでいるかもわからない，ベベの母親を捜そうと計画する。さて，ベベの母親はみつかるのだろうか？　そしてベベは……。

□演出のことば

今年は，外国物へ挑戦しようと意見が一致。そこで，前々から考えていたものの中から，この脚本を選びました。
この劇は，いわゆる戦後批判劇です。現代の難しい世界情勢の中で，私たちは平和を望まずにはいられません。戦争によって全てが悲惨に変り果ててしまうからです。私たちは戦争を知らないながら，戦争の恐ろしさを表現しようと努力しました。それが少しでも皆さんに伝わり，真剣に考えていただけたら幸いです。そして，一番の苦労は，大道具です。私たちの汗と涙の結晶といってもいいほど，みんなが力を合わせて作り上げました。その装置にどうかご注目下さい。

上演 21　常盤木学園高等学校　迷夢（まいむ）

□ 作　演劇部

□ 顧問　長谷川博，小野寺典世
部長　石川のり子

□ スタッフ

演出	桜谷　香(3)
	日野千賀子(2)
舞台監督	小島　早苗(1)
	石川のり子(3)
装置	山崎みどり(2)，石川のり子(3)
照明	菅　由理恩(1)，高橋　恭子(3)
	笠原　陽子(3)
効果	佐々木輝美(1)
衣裳・メイク	引地はる美(2)，針生　理花(1)

□ キャスト

柏木　愛	笹原　晴美(1)
タック	阿部はるか(3)
たず	斎藤千恵子(1)
あや	小林　明美(3)
ケイ	真木　富美(1)
あゆみ	高橋　順子(2)
ピュア	鈴木　浩美(3)

□ あらすじ

事故によって，左足を失った愛は自暴自棄になってしまった。
そこへへんちくりんな人物があらわれて，愛を過去にもどしてやる…が実はもどらないで，時間空間の穴におちてしまう。
そこには，過去から未来をとおして，愛と同じように落ちてしまった人たちがいた。ここから先，いったいどうなるのだろう？

□ 演出のことば

今，めざましい社会の進歩の中にいる私達は，その中でそれに素直に従っていいのか…とか，それでも，何かを失っていく感じるが，それは何なのか！
という感じのテーマは，これから未来をつくっていく私たちにとって，とっても大切なことだと思ったのです。
そんなことに基づいて，つくった脚本です。

仙台市高等学校演劇祭上演記録

第1回　昭和43年11月28日～12月1日

最優秀	仙台工業高等学校	「ふきだまり」	湯川　計伍作
優秀	東北工業大学電子工業高等学校	「轍（わだち）」	水野　文雄作
優秀	宮城学院高等学校	「唖のユミュリュス」	ジャン・アヌイ作 鈴木りきえ訳

第2回　昭和44年11月6・9・15・16日

最優秀	仙台工業高等学校	「面（ますく）」	演劇部作
優秀	宮城学院高等学校	「高等学校数学Ⅰ」	野田市太郎作
優秀	仙台白百合学園高等学校	「長い長い橋の上で」	内木　文英作

第3回　昭和45年11月19日～23日

最優秀	仙台工業高等学校	「勉強を邪魔するやつは誰だ」	福田　薫作
優秀	仙台商業高等学校	「橋の上」	高橋　英子作
優秀	宮城県第三高等学校	「墨東記」	阿坂卯太郎作

第4回　昭和46年11月18日～21日

最優秀	宮城県名取高等学校	「魔女宣言」	高田英太郎作
優秀	尚絅女学院高等学校	「虫めづる姫」	榊原　政常作
優秀	聖和学園吉田高等学校	「遠いふるさと」	鶴田　康己作
佳作	仙台育英学園高等学校	「駆けて行け弔旗を降ろし」	木村　純一作
佳作	仙台白百合学園高等学校	「外向168」	榊原　政常作

第5回　昭和47年11月16日～19日

最優秀	聖ウルスラ学院高等学校	「ある群れ」	湘南女子高等学校演劇部作
優秀	常盤木学園高等学校	「試行錯誤」	佐々　俊之作
優秀	仙台白合学園高等学校	「ある午後」	岡野奈保美作
佳作	聖和学園吉田高等学校	「薯の煮えるまで」	風見　鶏介作
佳作	宮城県名取高等学校	「土壇場」	林　黒土作

第6回　昭和48年11月14日～18日

最優秀	宮城県名取高等学校	「影ぼうし紀行」	野辺　由郎作
優秀	常盤木学園高等学校	「当世幻談」	町井　陽子作
優秀	聖ドミニコ学園高等学校	「静かなる朝」	原　博作
佳作	宮城県第三女子高等学校	「青い鳥」	演劇部作
佳作	仙台育英学園高等学校	「ポンコツ車と五人の紳士」	別役　実作

第7回　昭和49年11月19日～23日

最優秀	常盤木学園高等学校	「才女ありて」	町井　陽子作
優秀	仙台女子商業高等学校	「試行錯誤」	佐々　俊之作
優秀	仙台育英学園高等学校	「ポンコツ車と五人の紳士」	別役　実作
佳作	宮城県名取高等学校	「遠いかなしみの総括」	かざた義彦作

佳　作	仙台白百合学園高等学校	「狂育白書」	佐々　俊之作
佳　作	尚絅女学院高等学校	「授　　業」	井関　義久作

第8回　昭和50年11月20日～24日

最優秀	宮城県名取高等学校	「流れ星四番」	野辺　由郎作
優　秀	聖和学園吉田高等学校	「遠いふるさと」	鶴田　康己作
優　秀	仙台高等学校	「遊びましょ」	榊原　政常作
佳　作	宮城学院高等学校	「芝　　居」	サミエルベケット作
佳　作	東北高等学校	「カボチャ畑に桜が散った」	演　劇　部作
佳　作	仙台工業高等学校	「信　　号」	ガルシン原作 演劇部脚色

第9回　昭和51年12月1日～5日

最優秀	聖和学園吉田高等学校	「ある群れ」	湘南女子高等 学校演劇部作
優　秀	宮城県名取高等学校	「聞いてる？ミランダ」	ジョン・アー作 きくちまさる脚色
優　秀	宮城県第二女子高等学校	「夢の中へ」	藤山久理子作
佳　作	仙台女子商業高等学校	「自縄自縛」	佐々　俊之作
佳　作	宮城学院高等学校	「The Daydream Believer」	演　劇　部　作
佳　作	仙台高等学校	「注文の多い料理店」	宮沢　賢治作 演劇部脚色
創作奨励賞	東北高等学校	「芝居は何処」	演　劇　部　作

第10回　昭和52年11月22日～27日

最優秀	常盤木学園高等学校	「三途の川を渡りそこねた少女の話」	丹野久美子作
優　秀	聖和学園吉田高等学校	「薯の煮えるまで」	風見　鶏介作
優　秀	宮城県鼎が浦高等学校	「埴生の宿」	石塚　雄康作
佳　作	宮城県第二女子高等学校	「黒いゲーム」	船津　量平作
佳　作	宮城県名取高等学校	「クリスマス」	かさだ義彦作
佳　作	朴沢女子高等学校	「時をむだなく」	土屋　弘光作
創作奨励賞	宮城県船岡養護学校	「出　　発」	演　劇　部作

第11回　昭和53年11月21日～26日

最優秀	東北高等学校	「蜉蝣（ふゆう）」	演　劇　部作
優　秀	宮城学院高等学校	「不思議な国のアリス」	伊藤　美樹作
優　秀	常盤木学園高等学校	「驟陰（ぞいん）」	演　劇　部作
優　良	仙台高等学校	「正午の伝説」	別役　　実作
優　良	仙台女子商業高等学校	「面接試験」	石上浩一郎作
創作奨励賞	宮城県第二女子高等学校	「新注文の多い料理店」	演　劇　部作

第12回　昭和54年11月23日～25日

最優秀	朴沢女子高等学校	「しんでれら・げえむ」	坊丸　一平作
優　秀	宮城県仙台第一高等学校	「永い冬の終わる頃」	長谷川　章作
優　秀	三島学園女子高等学校	「最後の選択」	演　劇　部作
優　良	常盤木学園高等学校	「青き日の童話にて…」	演　劇　部作
優　良	宮城県第二女子高等学校	「栄光の日」	町井　陽子作
創作奨励賞	宮城県仙台第一高等学校	「永い冬の終わる頃」	長谷川　章作

第13回仙台市高等学校演劇祭実行委員会名簿

役　名	氏　名	学　校	学年
委員長	早川香里	尚絅	(2)
副委員長	加藤真由美	宮城	(3)
〃	伊藤幸雄	一高	(2)
書記	猪狩聖子	三女	(1)
〃	上埜由香里	一女	(1)

□企　画

役　名	氏　名	学　校	学年
企画チーフ	相原裕彦	仙工	(3)
サブチーフ	阿部盛一	一高	(1)
〃	藤原美恵子	三女	(2)
	角川静	ウルスラ	(2)
	大友征美	ウルスラ	(1)
	鈴木利美	白百合	(2)
	白戸房子	白百合	(2)
	赤間和恵	仙高	(3)
	風間恵	仙高	(1)
	千田善則	仙工	(3)
	相沢百合子	ドミニコ	(2)
	樋口深雪	ドミニコ	(1)
	結城俊枝	朴沢	(2)
	小野寺道子	朴沢	(1)
	田口真弓	尚絅	(1)
	菅谷美貴子	一女	(2)
	伊藤和恵	聖和	(2)
	菅原ルミ子	聖和	(2)

□広　報

役　名	氏　名	学　校	学年
広報チーフ	浅野正巳	南	(2)
サブチーフ	高橋ゆかり	三島	(2)
〃	引地はる美	常盤木	(2)
	加藤睦子	二女	(2)
	庄子千香	二女	(1)
	渡辺昭子	泉	(1)
	安藤理香	泉	(2)
	山本豊子	女子商	(1)
	安達裕子	女子商	(1)
	山崎みどり	常盤木	(2)
	二郷英子	三島	(1)
	大内由佳子	宮城	(1)
	山本典	育英	(1)
	中村利通	育英	(1)
	阿部尚	東北	(2)
	大塚昭彦	東北	(1)
	久保田千佳子	向山	(2)
	永野博子	向山	(1)
	松野則子	南	(1)
	飯塚章	仙商	(2)
	佐々木春彦	仙商	(2)

生　徒　審　査　員

相原裕彦	（仙工・3）	佐藤千鶴子	（聖和・3）
井沢芳郎	（東北・2）	岩間ゆかり	（ドミニコ・3）
鈴木昭彦	（育英・3）	佐藤敦子	（一女・2）
石川のり子	（常盤木・3）	高橋ゆかり	（三島・2）
丸山愛	（仙高・3）	内ケ崎由美子	（朴沢・2）
猪股祐子	（女子商・3）	高山美香	（ウルスラ・2）
田畑みゆき	（白百合・3）	浅野正巳	（南・2）
庄子優美	（尚絅・3）	斎藤洋子	（泉・3）
福島規子	（二女・3）	久保田千佳子	（向山・2）
倉科かおる	（三女・3）		